

テーマ：カーボンニュートラリティーに向けた投資業界における動きと期待

ニッセイアセットマネジメントは、1995年に日本生命グループの資産運用会社として創業しました。当社は、国連責任投資原則（UN-PRI）が発足した2006年に署名し、これまで10年以上ESG運用に取り組んでいます。気候変動問題は世界が一丸となって取り組むべきテーマですが、カーボンニュートラリティーへの対策に向けてはリスクと機会の両面があり、資産運用業界が果たす役割の重要性は高まっています。ニッセイアセットは、運用会社としてNet Zero Asset Managers Initiatives(NZAMI)に加盟し、2050年の運用資産のCO2排出量ネットゼロを目指して努力しています。

“ESG”、“カーボンニュートラリティー”に関連した投資は今や一般的になってきました。従前は、ESGへの取組みに優れた企業への投資が“ESG投資”と呼ばれていました。しかし、社会全体がカーボンニュートラリティーに向かうためにはESGに積極的に取り組む“良い子への投資”だけでなく、“悪い子への投資”も重要であり、まさにパラダイムシフトを促進しなければなりません。カーボンフットプリントの多い企業が、事業構造の転換も含めネットゼロに向けたトランジションの意思のある企業に対するトランジションファイナンスの提供、あるいはイノベーションなどを通じてネットゼロに貢献するインパクト投資は極めて重要であると考えています。

カーボンニュートラリティー実現に向け、例えば電力について見てみますと、発電、蓄電、送電、そして我々が電力を利用し、更には再利用まで、部分最適ではなく、一連のサイクルで考える全体最適化が重要です。こうした取組みには、各領域での技術革新・イノベーションとインフラ整備が必要であり、そこには多大な資金需要が生じますが、資産運用会社としてトランジションファイナンスやインパクト投資という形での支援することの役割が今まさに高まっています。

当社では、持続可能な社会の実現に向け、「A Good Investment for the Future」を企業スローガンに掲げております。当社は資産運用のプロフェッショナルとして良いリターンを上げることと環境・社会のサステナビリティ向上に貢献すること、その二つを中長期的に両立させる良い投資機会を見だし、投資し、サステナブルな社会の実現に向けた役割を果たしていきたいと願っています。